

【報告(1)】平成29年度 史跡小牧山主郭地区第10次発掘調査について

【 史跡小牧山（小牧山城）の概要 】

史跡小牧山(写真1)は山全体が戦国～安土桃山時代の城郭・小牧山城であり、山中に当時の遺構(土塁・堀・石垣等)が良好に残る貴重な城跡(図1)として昭和2年に国指定史跡となりました。永禄6年(1563)に織田信長が初めて自らの手で築き、岐阜に移るまで4年間居城とした城、天正12年(1584)、小牧・長久手の合戦で改修され、徳川家康の本陣として利用されたことで広く知られています。



写真1 史跡小牧山 全景

【 調査の概要 】

遺跡名	小牧山城(国指定史跡 小牧山)
所在地	愛知県小牧市堀の内一丁目地内
調査理由	史跡整備
調査面積	約100㎡(W区)
調査期間	平成29年8月～平成29年11月
調査主体	小牧市教育委員会
調査名	史跡小牧山主郭地区第10次発掘調査

【 おもな調査成果 】

(1)主郭北西斜面に張り出した石垣列A、Bを確認

小牧山城の発掘調査では、平成26年度に山頂の北側で3段目の石垣(石垣Ⅲ)を確認し、大きな話題となりました。今回の調査区はそのときに見つかった3段目石垣から続く斜面の西側に位置します。地表面観察では石垣の痕跡は見当たらず、急斜面でもあることから、調査前にはこの部分に石垣の延長があるとは想定していない箇所でしたが、堆積土や転落石を取り除いたところ石垣が良好な状態で残存していることが判明しました(図2)。

確認した石垣列Aは屈曲を繰り返しており(写真2)、残存延長は7.4m、推定される高さは1～1.5mです。石垣は野面積で石材は30～60cm程度の自然石(小牧山産堆積岩)を主体としていますが、一部に川原石(写真3)を用いている点で主郭北～北東斜面で確認した3段目の石垣と共通します。

石垣列Bは延長1m以上の石垣と推定され、石垣列Aと現園路を挟むように並びます。

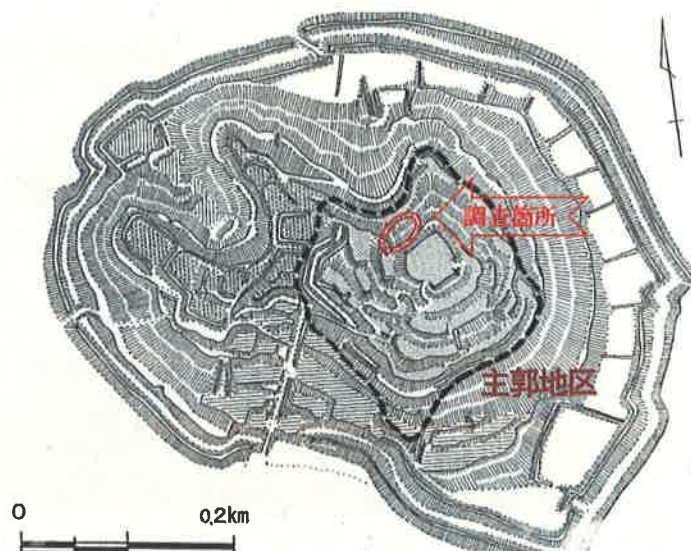


図1 小牧山城縄張図と調査箇所



図2 小牧山城 主郭部石垣プラン

(2)小牧山城主郭に至る未確認の出入口(虎口)確認

複雑に屈曲した石垣列は、山頂西側に展開する曲輪群から主郭に至る登城道の途上に位置し、道の両側を挟むように張り出す形状をしています。こうしたプランは石垣で画された出入口(虎口)の存在をうかがわせます。

小牧山城を築く際に主郭に入るための複雑な構造を持たせ、外部の人間の出入りを容易にさせないような工夫を凝らしていたことがわかります(図3)。



写真2 新たに見つかった石垣列A (北西斜面)



写真3 石垣列Aに用いられた川原石 (矢印)



写真4 調査区から石垣I (矢印) をのぞむ

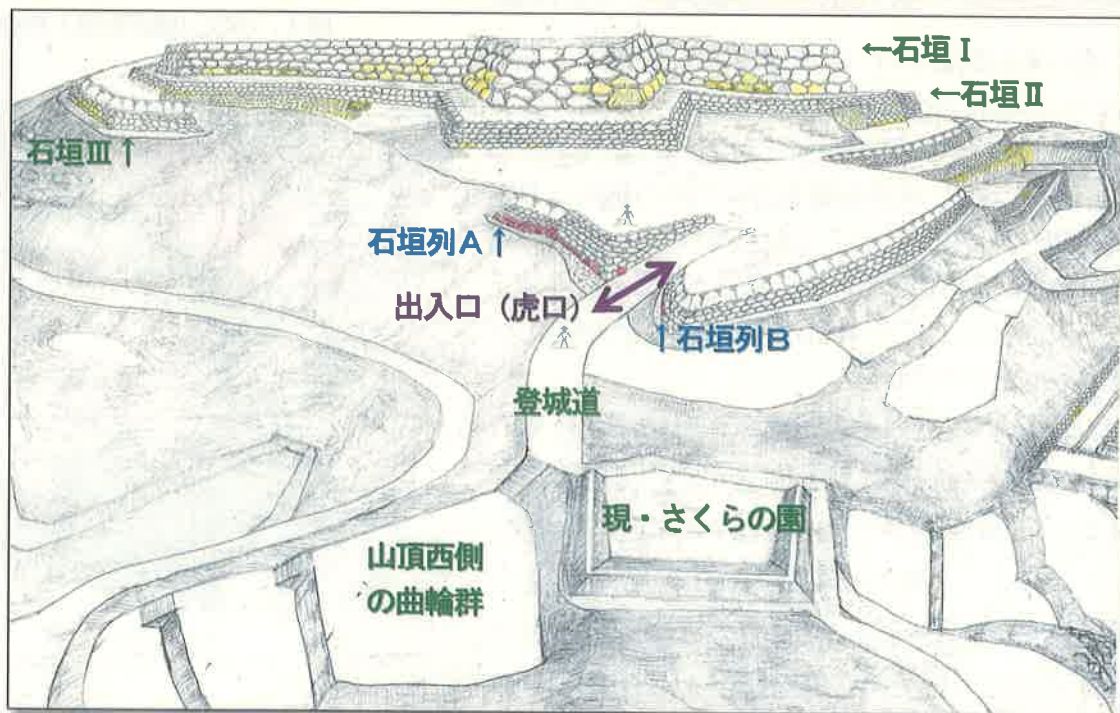


図3 小牧山城山頂周辺推定模式図 (西から)

※ 今回の調査で確認した石垣を赤色、これまでの調査で確認した石垣等を黄色で表示